

10月31日 日刊工業新聞 より
 「最新レーザ技術研究センターの新技術」

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

10月31日 木曜日
 2019年(令和元年)

最新ニュース

「最新のレーザ加工技術」 の共同開発

株式会社最新レーザ技術研究センター <http://aitrec.la.coocen.jp>



ロボット溶接の
 チップ寿命
 を延ばすには？

従来型チップを **半割れ型チップ** に変える。

特殊レーザービーム加工やレーザー溶接による異種金属間の溶接等の最新のレーザー技術の共同開発、委託加工、技術指導を行っている最新レーザ技術研究センターでは、最近、高出力シンドラモードファイバーレーザーを用いた高速スキャナーを用いたレーザー加工やレーザーバリ取り装置の開発を行っている。毎秒40mの高速度で処理できるため、熱影響も少なく、C/D/R材料やG/D材料の穴あけ、切断加工もできる。超細パルスレーザーによるレーザー加工では、任那研研協力を受けたり、複雑なデザイン加工も可能である。中量加工と共同開発した「バリ取り用レーザー成形装置」は今後、品質向上が期待できる製品である。

半割れ型構造による長寿命でコスト削減に貢献
 同社の最先端とアーク溶接用の長寿命の半割れ型超硬チップは、アーク溶接のトーチの先端に取り付ける超硬チップで、その構造を一体構造から半割れ型構造に改造し、レーザー溶接することで、チップ先端で強制給電し、チップ内部での通電によるシールド熱をなくしてチップ寿命を改善。コスト削減にもつながった。半割れ型チップは、溶接速度も速く、より、割れ型チップの先端温度を下げ、割れ型チップが少なく、ワイヤー

新メタルボンド超砥粒ホイール 「グランメタル」

日本ダイヤモンド株式会社 <http://www.nippondiamond.co.jp>



切れ味と長寿命を
 両立させたNEW砥石!

ボンドは5グレードをラインアップ。
 研削加工条件に合わせて適切なボンドの選択が可能。

日本ダイヤモンドは、大正6年ダイヤモンド工具製造会社として創業し、100年を迎えた老舗企業。ダイヤモンド工具業界に多種多様な製品と人材を送り出し業界発展の礎を築いてきた同社は、徹底的な設備投資と人材育成をさらに進め、次の100年に向け経営基盤の強化を図っている。

ドレッシングターバル向上と加工コスト低減を実現
 新開発のボンドシステムにより寿命と切れ味を兼ね備えた新メタルボンドホイール「グランメタル」を開発・販売している。砥粒を固定するメタルボンドと特殊ファイラーの配合を最適化し、レジソボンドの切れ味とメタルボンドの耐摩耗性を合わせ持つ研削性能を実現した。特に超硬のドリルやエンドミルなどのフル1ト研削においては、形状維持性に優れるとともに切れ味の良さから高送りが可能となり作業効率の大幅な改善に繋がっている。

ボンドの種類は5グレードをラインアップしており、ハイス工具の加工にも対応できる。

Copyright © 2019 Nikkan Kogyo Shimbun, Inc. All rights reserved.